

「北海道大学における申請・審査システム」

北海道大学大学院医学研究科
附属動物実験施設
小山内 努

本学における「web 上での動物実験計画の申請・審査システム」について、実験計画の申請・審査、そして承認までを各画面を元にその詳細を紹介する。

北海道大学は「動物の愛護及び管理に関する法律」（平成 17 年一部改正）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準（飼養保管基準）」（平成 18 年環境省告示）、「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（基本指針）」（平成 18 年文部科学省告示）を受け、平成 19 年に「北海道大学動物実験に関する規定（機関内規定）」を施行した。

本学の規定では、総長は動物実験等の適正な実施についての統括管理者であり、「動物実験計画の承認」が重要な責務のひとつとなった。そのため、「全部局等の動物実験計画の一括審査体制の構築（全学動物実験委員会）」が不可欠となり、従来から部局毎に実施されていた申請・審査体制の全学一元化を図った。

当初の全学的申請・審査システムは実験計画のメール添付による紙媒体方式を取っていた。しかし、札幌・函館の両キャンパスを併せると審査件数が多く、以下に示すような課題が浮き彫りになり、その解決が急務となった。

（紙媒体による審査方式—考慮すべき点—）

- 1) 審査期間が長期になるケースが発生
- 2) 審査委員の負担増
- 3) 事務的処理における人的不足
- 4) その他（情報守秘への不安等）

そこで、既に稼働していた製薬企業の web 上の申請・審査システムをモデルとして、教育機関向けのシステムの検討を行った。

（web 利用の新システム—利点—）

- 1) 申請者の労力軽減

手入力項目を極力少なくするため、プルダウンメニューを増やす等の自動化を図った。

例)

- a) 申請者のログイン後の初期画面では、本人の氏名・フリガナ・e-mail アドレス・部局等名・教育訓練受講の有無等の自動表示、さらに研究グループの実験実施者名も選択可。
- b) 使用動物種、承認済み飼養保管施設・実験室、麻酔薬、鎮痛薬名等は一覧から選択可。

- 2) 審査期間の迅速化

- a) 実験計画書の整理が不用、紛失の危険性も無い。
- b) 未審査の審査委員には催促メールが自動送信されるため、審査期間の短縮に繋がる。

全て Web 上で行う新システム導入後は、記入文字数の拡大、申請・審査フローの一部変更等の対応に迫られながらも、大きなクレームも無く、円滑に運用されている。